

第4回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

人の尊厳に根ざす生活困窮者自立支援で 新しい社会保障の展望を共に拓く

通信 3

徹底討論パート2 生活困窮者自立支援制度と地域共生社会



宝塚市社会福祉協議会
常務理事
佐藤寿一さん

人口約23万人、高齢化率26.7%の兵庫県宝塚市では、市内7ブロック(包括圏域)と20のコミュニティ組織とともに「受け止める地域づくり」を行う一方、課題解決のための全市対応の庁内連携会議が開かれています。住民主体の運営が大切!住民を資源として使うのではなく、住民に使われる専門職が求められます。



NPO 法人とかの元気村
副理事長
森田有紀さん
(あったかふれあいセンター
とかのコーディネーター)

高知県佐川町斗賀野地区は、人口3千人余、高齢化率は36.6%。県単事業の「集落活動センター」と「あったかふれあいセンター」を拠点に、集い・学び・世代間交流・訪問・相談・送迎・生活支援などを展開。利用者登録は町内外合わせて811人で、1日平均30人前後が利用。ちょっとした困りごとをサポートする、あったかお助け隊というボランティアスタッフは、感謝されることで「出番がある」「また役に立ちたい」という思いを強めています。ときには利用者もボランティアとなり、気かけ合い、支え合う地域づくりを目指しています。

●コーディネーター
生活困窮者自立支援
全国ネットワーク 顧問
村木厚子さん



フロアディスカッション 生活困窮者自立支援制度と地域共生社会



はじめに生活困窮者自立支援全国ネットワーク顧問の山崎史郎さんが、「この法律は皆さんに『お任せする』法律です。この制度を『使って』、一緒に考え、いい仕事をしていただきたい」と発言。「断らず、あきらめず、投げ出さず、解決できなくても、つながり続けていれば、いつかは解決方法が見つかる」と強調しました。

続いて、ジャーナリストの迫田朋子さんのコーディネートで、徹底討論パート1と2の登壇者が質疑応答に応じました。会場からは、「専門職の確保が大事だが、難しい」という声飛び出すと、中央大学教授の宮本太郎さんは、「総合的な評価が必要であり、評価基準の確立が大事」、日本福祉大学学長補佐の原田正樹さんは「次の世代にこの仕事の魅力をどう伝えていくかが大切」と回答。フロアからは「我が事・丸ごと」をもっと知らしめてほしい」などの要望もあがり、活発な議論がなされました。



分科会

分科会1 「はたらく」ことを支援する 地域づくり



分科会3 一人ひとりの尊厳を柱とした 包括ケアと生活困窮者支援



分科会4 現地企画① ことわらない支援 から視えてきたもの ～地方中核都市からの発信～



分科会6 子ども・若者支援 ～孤立からの脱却と自立支援の方策～



分科会7 居住支援のこれから ～住宅と暮らしの一体的な支援とは



分科会8 生活困窮者自立支援事業の 力量アップをはかる ～自ら&協働の事業推進の視点～



本日午後からは、分科会2「農業分野は、キャリア形成を応援できるか!？」及び分科会5・現地企画②「困りごと支援は土佐の山間から」を行っています。

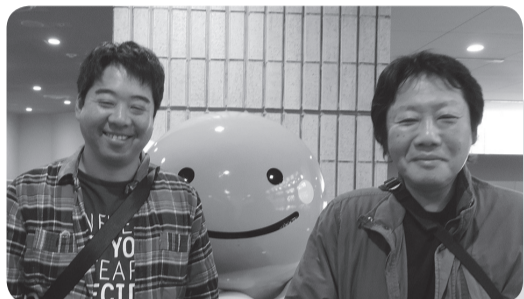
分科会9 必須事業の実現に向けて ～家計相談支援の原点に戻る～



分科会10 地域力「地域に生きる」



INTERVIEW 参加者 インタビュー



白杵市福祉事務所
白杵市・福祉課
村田信幸さん、
藤田和秋さん
(大分県)

生活困窮、家計相談などいろいろな話が聞けると思いますが、特に子どもの貧困への対応などについて、国の動向等の話を聞いて今後の支援につなげていきたいと思っています。



木津川市 健康福祉部 くらしサポート課
林 宣弘さん
(京都府)

全国各地でご活躍されている方々のお話が聞けることがとても楽しみです。
本市では、無料で職業紹介事業を実施しており、地元で働いてもらうため企業とのつなぎ役を担っていますが、連携などに少し難しさを感じている点もあるので、参考になる取り組みやヒントを持って帰りたいと思っています。



NPO 法人
インクルいわて
白浜綾子さん
(岩手県)

様々な団体の取り組みのお話が聞けるので期待しています。
東日本大震災では、被災者支援のスキームができていないと痛感しました。近い将来、南海トラフ地震の発生が懸念されています。早急な被災者支援スキームの確立が必要だと思っています。



長久手市 福祉部福祉課
高山達也さん
(愛知県)

毎年この大会には当市から参加をさせてもらっています。熱い思いの支援者の方々が一堂に集まり、熱い話を聞かせてもらえることが楽しみです。就労支援のあり方や進め方なども気になっていますが、なにより、この大会の参加を通じて、ネットワークをつくって帰りたいと思っています。



高知市
平井孝典さん

昨年度まで生活保護業務の担当をしていました。毎回、この大会には参加していますが、生活困窮者自立支援法が成立して3年が経過して、良い部分と悪い部分が見えてきました。自身の勉強のためにも講師の方々の話を聞けることを楽しみにしています。



公益財団法人
共生地域創造財団のお二人
(岩手県)

東日本大震災の被災者支援をしており、私たちの抱えている課題と違った内容の話が聞けて、とても参考になりました。

人口規模がそれぞれ違う自治体の取り組み事例だったので、それぞれに特徴があって面白かったです。機会があれば、もっと詳しく聞いてみたいです。



社会福祉法人南山城学園
築井一哉さん、西田義彦さん
(京都府)

就労支援事業を実施させてもらっていますが、今回は厚労省など国の考え、思いの軸がどこにあるのか、またそれを踏まえて地方(地域)に求められていることは何かを把握し、柔軟なより良い支援をしていきたいと思参加しています。



社会福祉法人
始良市社会福祉協議会
丸野光俊さん
(鹿児島県)

この大会への参加は3回目。毎回、様々な取り組みが聞けるので参加しています。他県での取り組みなど、どんどん情報は取り入れていき、つなげていきたいと思っています。島根県邑南町の取り組みなども参考にさせてもらえそうです。

NEWS!!

大会1日目の様子が、
11月12日付けの
高知新聞朝刊に載りました。
下記サイトからも閲覧可能です。

<https://www.kochinews.co.jp/article/138580/>



第5回生活困窮者自立支援全国研究交流大会 開催決定!

- 開催日 2018年11月10日(土)・11日(日)
- 会場 熊本県立劇場ほか
- 主催 一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク

詳細は決まり次第、ホームページ上に掲載いたします
来年は熊本でお会いしましょう!



次号のご案内

第4回生活困窮者自立支援全国研究交流大会速報の第4号は、2018年1月に発行し、ホームページ上に掲載をする予定です。本日の分科会の詳細も盛り込みます。どうぞお楽しみに!

編集 後記



2日間にわたる生活困窮者自立支援全国研究交流大会にご参加いただき、ありがとうございました。来年は熊本で、ぜひお会いしましょう!
(文責 事務局編集部)



赤い羽根
福祉基金

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION